

国立国語研究所学術情報リポジトリ

宮古語諸方言での名詞句階層でみる複数性表現に関する予備的調査報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国立国語研究所 公開日: 2024-03-07 キーワード (Ja): 宮古語, 複数形, 名詞句階層, 非ヒト名詞 キーワード (En): 作成者: 大島, 一, セリック, ケナン メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/0002000175

宮古語諸方言での名詞句階層でみる複数性表現に関する 予備的調査報告

大島 一 セリック・ケナン
国立国語研究所 研究系

要旨

本稿では宮古語諸方言における複数形式を対象に実施した予備的調査の結果について報告する。まず、宮古語の各方言では少なくとも二つの複数形式が用いられるが、複数形式の実態とそれらの複数形式の名詞への付き方は諸方言により多様であることが観察された。また、日本語共通語ではふつう非ヒト名詞に複数形式は付けられないが、宮古語の一部の方言では非ヒト名詞にも複数形式の付加が制限なく可能であることが分かった。その他に、数以外の意味的範疇（「軽卑」など）に関わる用法も観察しており、宮古諸方言における複数形式のバリエーションには様々な変数が関与すると考えられ、これらの変数について予備的な整理を試みる*。

キーワード：宮古語，複数形，名詞句階層，非ヒト名詞

1. はじめに

日本語本土諸方言における複数形式「～たち」や「～ら」などは、各地方言において名詞句階層に沿って様々な付加状況を示していることが注目されている（大島 2018）。琉球諸語についても複数形式の豊富なバリエーションがあることが解明されつつあるが、個別形式の付加状況について詳しく記述されていない方言が多く残っている。従って、本発表では、宮古語諸方言における複数形式のバリエーションとそれぞれの形式の付加状況を明らかにすることを目的に、発表者らが宮古語の6地点を対象に実施した予備的調査の結果について報告する。

2. 先行研究

宮古語諸方言について個別方言を詳細に記述した研究は数多く存在するが、複数形式に関する説明は限定的である傾向がある。以下では、複数形式に言及する主要な記述研究を概観する。

* 本稿は、令和5年度第1回「危機言語の保存と日琉諸語のプロソディー」合同研究発表会（2023年6月10日（土）、於、国立国語研究所多目的室）での発表内容に沿って執筆したものである。なお、当発表に関する調査に関しては、国立国語研究所の共同研究プロジェクト基幹型「消滅危機言語の保存研究」（プロジェクトリーダー：山田真寛）および、日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究（C）「複数性の本質を求めて：統一的な枠組みで捉えた日本語諸方言における「ら」の意味用法」（20K00562）の助成を受けている。また、研究会での質疑応答や、本稿執筆において有益なコメントをくださった新永悠人氏（弘前大学）に感謝を表す。

なお、例文グロスにおける略号で、Leipzig Glossing Rules (<https://www.eva.mpg.de/lingua/pdf/Glossing-Rules.pdf>) に記載のないもの：DIM: Diminutive「指小辞」、FIL: Filler「フィラー」、INC: Inclusive「累加」、SFP: Sentence Final Particle「文末詞」

2.1 池間西原方言（林 2013: 86-88）

池間西原方言では -ta と -mmi の 2 つの複数形式がある。-ta は「特定の人を表す名詞もしくは話者の共感度の高い対象を表す名詞につき「X およびそれを中心とするグループ」という意味」（林 2013: 86）を表すとされる。また、代名詞には -ta しか付けられない。一方、-mmi は「動物などにも用いることができ、均質的な集合を表す」（林 2013: 86）とされる。

ある名詞にどの形式が付くかはほぼ語彙的に決まっているが、両方の形式が取れるものもあるという。さらに、-ta は =ga 「主格・属格」と共起するのに対して、-mmi は =nu 「主格・属格」と共起する(1)。

- (1) a. zza-ta=ga munu 「お父さん-PL=GEN もの」
b. uibitu-mmi=nu munu 「老人-PL=GEN もの」
林（2013: 86）より（グロス是一部改変している）

2.2 伊良部長浜方言（下地 2018: 144-146）

伊良部長浜方言では、近似複数の -ta と一般複数の -mmi がある。近似複数 -ta は固有名詞や、人間名詞の一部のみに付き、「～とその仲間」、「～にまつわる人たち」という意味（近似複数）を表す(2)。一方、一般複数 -mmi は人間名詞や、ごく一部の動物名詞に付くとされる(3)。

- (2) zjunzi-ta 「ジュンジ-PL」, sinsii-ta 「先生- PL」, jakusjo-ta 「役所- PL」
(3) a. sinsii-mmi 「先生- PL」, pžtu-mmi 「人- PL」, žžu+akjaada-gama-mmi 「魚+商人-DIM-PL」
b. maju-mmi 「猫- PL」, ?tur-mmi 「鶏- PL」, *žž-mmi 「魚- PL」
下地（2018: 145）より

なお、(2)の sinsii-ta は「先生と生徒」という意味でも用いることができるのに対し、(3a)の sinsii-mmi は「複数の先生たち」という意味にしかならない（下地 2018: 145-146）。したがって、-ta と -mmi に近似 vs. 一般複数の対立があることが分かる。

2.3 下地皆愛方言（セリック, 2018: 102）

下地皆愛方言では、-ta と -nukjaa の形式があり、どの接辞が使われるかはこの言語の名詞の階層性によって決まるという。

- (4) -ta : 代名詞, 指示詞, 疑問詞の一部（誰, どこ, どれ）
・ ban-ta 「私-PL」, ui-gama-ta 「それ-DIM-PL」, too-ta 「誰-PL」
(5) -ta / -nukjaa : 呼称可能名詞（固有名詞, 目上の親族名詞など）
・ adza-ta, adza-nukjaa 「兄-PL」, eateoo-ta, eateoo-nukjaa 「社長-PL」
(6) -nukjaa : その他の名詞

- ututu-nukjaa (*ututu-ta) 「弟妹-PL」, noo-nukjaa (*noo-ta) 「何-PL」

2.4 城辺新城方言 (王 2023: 109-113)

城辺新城方言では, -taa と -nukjaa の2つの複数形式があり, 「下地 (2017), Shimoji (2018) が提案している「どんな名詞句に接続するか」という基準によって, 使い分けられている」としている (王 2023: 109)。当研究が話者ごとに報告している調査結果を(7)-(9)に示す (王 2023: 109-113)。

- (7) 話者1: 代名詞と指示代名詞は -taa のみ取り, -nukjaa は不可。それ以外のヒト名詞は -taa も -nukjaa も取れる。動物は -nukjaa のみ可能。無生物には複数接辞は付かない。

- taroo-taa=ga / taroo-nukjaa=nu 「太郎という名前の人が」

! 「太郎とその仲間」 (近似 (連合) 複数) の意味ではなく, 両者とも累加 (一般) 複数の意味

- maguro-nukjaa=nu 「マグロ (累加複数)」

! マグロを代表とした, マグロと他の魚のグループの意味は表すことができない

- (8) 話者2: -taa は代名詞, 人間を表す指示詞, 疑問名詞, 呼称詞 (目上の親族名詞, 社会関係を表す名詞) に付き, -nukjaa は疑問名詞, 目下の親族名詞と一部の人間名詞に付く。

- 話者1で示されている「太郎たち」に関しては未調査
- 動物および無生物も未調査

- (9) 話者3: 面接未調査であるが, 無生物に -nukjaa の例が確認されたという。

- toomorokosi-nukjaa=mai=du 「とうもろこし-なんか=も=FOC」

2.5 まとめと問題提起

以上の先行研究を概観すると, 次の共通点が見出せる。第一に, 宮古語のどの方言にも2つの複数形式が存在する。第二に, その使い分けについては名詞句階層が関わっている。すなわち, 名詞句階層の高い方には -ta(a) が付き, 低い方には -mmi / -nukjaa が付く傾向が認められる。以後の議論では, ある方言で区別される2種の形式を, 名詞句階層のより高い方に付く形式を「H形式」と呼び, そのより低い方に付く形式を「L形式」と呼ぶ。さらに, 方言によっては, 同じ名詞でもH形式とL形式の両方が付加されうるが, 付加される形式によって, 近似もしくは一般複数といった意味機能の違いも見られる (伊良部長浜方言)。

このように, 宮古語諸方言における複数形式について多くの知見が得られているが, 不明な点が残っていると言える。なぜならば, 先行研究で提示されている用例が少なく, 例えば, 同じ名詞句に2つの形式とも使える場合, どのような意味機能の違いがあるかについて詳しく記述されていないからである。また, 皆愛方言のように, 複数形式が非ヒト名詞に付加できると記述されている方言もあるが, その用法についてもほとんど記述されていない。従って, 本研究は, 宮古語諸方言における複数形式のより詳細な意味記述に向けて, 実態調査を通じて次の2つの目的を

掲げる。1) 宮古語諸方言に分布する複数形式とその付加範囲を確認すること, 2) 複数形式が非ヒト名詞にも付加可能かどうか, そして, その際の意味機能はどのようなものであるかを明らかにすること。

3. 調査概要

調査は2023年3月中旬に、宮古語の6地点において面接調査で実施した。地点および話者は、与那覇（男性70代）、水納島（男性80代）、川満（男性70代）、砂川（女性70代）、皆愛（男性70代）、池間島（男性80代）の6地点（6名）である。

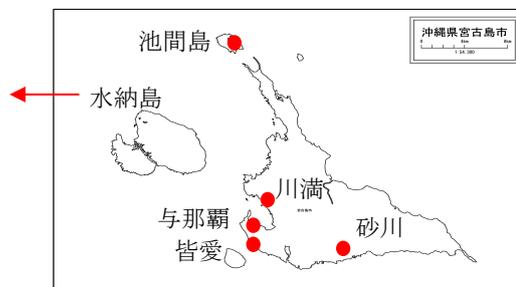


図1 宮古語調査6地点

調査内容は、名詞句階層に基づいて作成した調査票の各項目（表1）に対して、複数形式が取れるかどうか、取れる場合は、その意味を聞いた。

表1 調査票項目内容

カテゴリ	共通語語彙	カテゴリ	共通語語彙	カテゴリ	共通語語彙	カテゴリ	共通語語彙	
人称代名詞	私	親族	祖父	動物	犬	食べ物	ハエ	
	君		祖母		猫		虫など	セミ
	お前／あなた		父		うさぎ		エビ	
	あなた		母		インコ	たまご		
	彼		兄		カメ	肉		
	彼女		姉		ねずみ	ごはん		
固有名	太郎	弟	鳥	物など他	焼き魚			
	花子	妹	牛		教科書			
職業	先生	子	豚		メモ帳			
	生徒	孫	羊		靴下			
	社長	おじ	ヤギ		机			
	店員	おば	たぬき		椅子			
人間	男	おい	きつね	石				
	女	めい	さかな	車				
	あのひと	いとこ	カツオ	バトカー				
	こども	はとこ	アジ	お店				

4. 調査結果

4.1 地点 1：与那覇

与那覇方言では -taa (H 形式) と -nukjaa (L 形式) の複数形式が観察された (表 2)。ヒト名詞には上下に従って -taa および -nukjaa が付けられるが、非ヒト名詞には -nukjaa のみが付けられる。

表 2 与那覇方言における複数形式とその付加範囲の概略図

形式	ヒト名詞 (上)	ヒト名詞 (下)	非ヒト名詞
H 形式 -taa	✓	×	×
L 形式 -nukjaa	×	✓	✓

4.1.1 ヒト名詞：-taa もしくは -nukjaa

階層の最も高い (表 1 の左側) 人称代名詞, 固有名, 職業名には H 形式の -taa が付く。kari-taa 「彼・彼女-PL」, taroo-taa 「太郎-PL」, sinsii-taa 「先生-PL」, sjatsjoo-taa 「社長-PL」。

親族名称は上下に従って, H, L 形式両者が付くことが観察された。uja-taa 「父-PL」, budza-taa 「おじ-PL」 に対して mmaga-nukjaa 「孫-PL」。人間も同様に H, L 形式が観察された。bikidumu-nukjaa 「男-PL」, jarabi-taa / jarabi-nukjaa 「児童-PL」。

4.1.2 非ヒト名詞：-nukjaa

非ヒト名詞には L 形式のみが付けられる。動物は, in-nukjaa 「犬-PL」, maju-nukjaa 「猫-PL」, zzu-nukjaa 「さかな-PL」, katsuu-nukjaa 「カツオ-PL」, pav-nukjaa 「ハエ-PL」, gaana-nukjaa 「セミ-PL」。

モノ名詞では, tunaka-nukjaa 「たまご-PL」, maŋ-nukjaa 「ごはん-PL」, kutsjsita-nukjaa 「靴下-PL」, mattsjja-nukjaa 「お店-PL」。

4.2 地点 2：砂川

砂川方言では, -taa (H 形式) と -nukjaa (L 形式) の 2 種の形式が観察された (表 3)。非ヒト名詞 (動物, モノ) においては H 形式, L 形式とも付加可能である。

表 3 砂川方言における複数形式とその付加範囲の概略図

形式	ヒト名詞 (上)	ヒト名詞 (下)	非ヒト名詞
H 形式 -taa	✓	×	✓
L 形式 -nukjaa	×	✓	✓

4.2.1 ヒト名詞：-taa もしくは-nukjaa

人称代名詞，固有名詞には H 形式の -taa が付く。vva-taa 「君-PL」， kai-taa 「彼-PL」， hanako-taa 「花子-PL」。

一方，親族名称は上下に従って，H 形式，L 形式が付けられる。sjuu-taa 「祖父-PL」， anna-taa 「母-PL」に対して ututu-nukjaa 「弟-PL」。同様に，職業も sinsii-taa 「先生-PL」 vs. siitu-nukjaa 「生徒-PL」のように上下で使い分けられるものもあるが，両方付けられるものもある。sjatsjoo-taa / sjatsjoo-nukjaa 「社長-PL」， sitsjoo-taa / sitsjoo-nukjaa 「市長-PL」， patarakɣuna-taa / patarakɣuna-nukjaa 「店員-PL」。

そして，人間は L 形式のみである。midum-nukjaa 「女-PL」， ffa-nukjaa 「こども-PL」。

4.2.2 非ヒト名詞：-nukjaa または -taa

非ヒト名詞において，動物および虫は予想される L 形式のほかに，H 形式も付けることが出来る。この際の H 形式付加の意味は「～とその他」，すなわち近似複数の意味となる。

[動物] : maju-nukjaa 「猫-PL」 vs. maju-taa 「猫-その他」， tuɣ-nukjaa 「鳥-PL」 vs. tuɣ-taa 「鳥-その他」， usɣ-nukjaa 「牛-PL」 vs. usɣ-taa 「牛-その他」， zzu-nukjaa 「魚-PL」 vs. zzu-taa 「魚-その他」

[虫] : pai-nukjaa 「ハエ-PL」 vs. pai-taa 「ハエ-その他」， gaara-nukjaa 「セミ-PL」 vs. !gaara-taa (言いくいとのこと)

同じく非ヒト名詞でも，モノ名詞の場合，動物および虫よりもこの区別が明瞭でない。同じ意味の場合や，上記の L 形式が一般複数，H 形式が近似複数とは反対の結果も得られた。

[食べ物] : tunaka-nukjaa 「たまご-その他」 vs. tunaka-taa (同じ意味)， maɣ-nukjaa 「ご飯-その他」 vs. maɣ-taa (?)

[物など] : sjumutsɣ-nukjaa 「本-その他」 vs. sjumutsɣ-taa 「本-PL」， mattsjaa-nukjaa 「お店-PL」 vs. mattsjaa-taa 「お店-その他 (多種の店)」

4.3 地点 3：川満

川満方言では -taa (H 形式) と -nukjaa (L 形式) の形式が観察された (表 4)。ヒト名詞には上下に従って両方，非ヒト名詞は L 形式のみが付加可能である。

表 4 川満方言における複数形式とその付加範囲の概略図

	形式	ヒト名詞 (上)	ヒト名詞 (下)	非ヒト名詞
H 形式	-taa	✓	×	×
L 形式	-nukjaa	✓ (軽卑)	✓	✓

4.3.1 ヒト名詞：-taa もしくは -nukjaa

人称代名詞，固有名には H 形式が付けられる。vva-taa「君-PL」， kai-taa「彼-PL」， taroo-taa「太郎-PL」。

一方，親族名称は sjuu-taa「祖父-PL」に対して ututu-nukjaa「弟-PL」のように，上下に従って H，L 形式が付けられる。興味深いことに，目上の名詞に L 形式を付けることも可能であるが，その場合「軽卑」の意味が加わる。sjuu-nukjaa「祖父-PL.軽卑」。

人間には L 形式が付くが (bikidum-nukjaa「男-PL」， midum-nukjaa「女-PL」)，職業は親族名称と同じく上下に従って H，L 形式が付けられる。sinsii-taa「先生-PL」， sjatsjoo-taa「社長-PL」に対して seito-nukjaa「生徒-PL」。

4.3.2 非ヒト名詞：-nukjaa

非ヒト名詞には L 形式が付けられるが，その意味は名詞によって揺れるようである。例えば， in-nukjaa「犬-PL，犬-その他」のように一般複数と近似複数の読み両者があるという。なお，近似複数での意味においてはその名詞，すなわち「犬」が「その他」と成すグループにおいて数が多いといけない。すなわち，いわゆる「多数派制約」（新永，2020:78）がかかっている。

その一方で，L 形式は近似複数の意味のみで，一般複数単数形が示すというものもある。usj-nukjaa「牛-その他」vs. usj「牛.単/複」， zzu-nukjaa「さかな-その他」vs. zzu「さかな.単/複」。

他， tunaka-nukjaa「たまご-その他」， maŋ-nukjaa「ごはん-その他」， paŋ-nukjaa「ハエ-その他」， kutsjsita-nukjaa「靴下-その他」， tsjkue-nukjaa「机-その他」は L 形式の近似複数の意味しか確認できなかった。

4.4 地点 4：水納島

水納島方言では，3つの複数形式が確認された（表 5）。H 形式は -ta(a)，L 形式には (=nu/=ga) mme と (=nu/=ga) kee の 2つの形式があるが，前者の mme が主に使われる。

表 5 水納島方言における複数形式とその付加範囲の概略図

	形式	ヒト名詞（上）	ヒト名詞（下）	非ヒト名詞
H 形式	-taa	✓	✓（敬意）	×
L 形式	=nu/=ga mme	✓（軽卑）	✓	✓
	=nu/=ga kee	（未詳）	✓	（未詳）

4.4.1 ヒト名詞：-ta もしくは -mme

人称代名詞，固有名には H 形式が付く。vva-ta「君-PL」， taroo-ta「太郎-PL」。

一方，親族名称は上下に従って，H，L 形式が付けられる。otoo-ta「父-PL」， anna-ta「母-PL」に対して uttu=nu mme「弟=GEN PL」， mjuui=nu mme「甥姪=GEN PL」。また，上の地点 3（川満）と同じく，目上の名詞にも L 形式が付けられるが，その際は「軽卑・批判」の意味が加わる。た

だし、川満方言と違って、水納島方言では複数に限らない。つまり、*uja=ga mme* は「親=GEN PL. 軽卑」と「親=GEN 軽卑」の両方の意味で解釈できる。逆に、L形式が付いている目下の名詞、さらにH形式の *-ta* を付けると、敬意を表すことができる (*ffa=nu mme-ta*「子ども PL-敬意」)。さらに、*uja-ta=ga mme*「親-PL=GEN PL」のように目上の名詞に両方の形式を重ねることが可能で、その場合、1つだけの形式を供えた *uja-ta*「親-PL」より数が多いことが表されている。

職業も上下によって *-ta, mme* が付けられるが、同様に、目上に *mme* を付けると軽卑になる(複数に限らないのも同様)。*sinsii-ta*「先生-PL」、*sjatsjoo-ta*「社長-PL」、*sitsjoo-ta*「市長-PL」、*sitsjoo=nu mme*「市長なんか(軽卑)」、*siitu=nu mme*「生徒-PL」、*ten.in=nu mme*「店員-PL」。

4.4.2 非ヒト名詞：mme

非ヒト名詞はL形式のみが付けられるが、上の地点3(川満)と同じく意味は一般複数と近似複数の二通りの解釈が可能である。例えば、動物では、*usɿ=nu mme*「牛 PL/牛 その他」となる。

他の非ヒト名詞、魚、虫、モノにおいては、*mme* は近似複数の意味である。また、単数形で一般複数の意味も持つ(これも上記地点3(川満)でも見られた現象である)。*gaara=nu mme*「アジ その他」(※アジ種類なら単数(*gaara*))、*pai=nu mme*「ハエ その他」、*sjusja=nu mme*「セミ その他(セミ多種)」、*kuga=nu mme*「たまご その他(多種のたまご)」、*mai=nu mme*「米 その他(米主体でその他、麦なども含む)」、*sjumutsɿ=nu mme*「書物 その他(書物多種)」、*kutsɿsita=nu mme*「靴下 その他(靴下と衣類その他)」、*patokaa=nu mme*「パトカー その他(パトカーとその他の車)」、*mattsja=nu mme*「お店 その他(色々な種類の店)」。なお、「～ その他」では当該名詞はグループの主体でないといけない(多数派制約が働く)。

4.5 地点5：皆愛

皆愛方言では、*-ta(a)* (H形式)と *-nukjaa* (L形式)の形式が観察された(表6)。ヒト名詞には上下に従って両形式が付けられるが、非ヒト名詞はL形式のみである。

表6 皆愛方言における複数形式とその付加範囲の概略図

形式	ヒト名詞(上)	ヒト名詞(下)	非ヒト名詞
H形式 <i>-taa</i>	✓	×	×
L形式 <i>-nukjaa</i>	×	✓	✓

4.5.1 ヒト名詞：-ta(a) もしくは -nukjaa

人称代名詞、固有名にはH形式が付く。*vva-ta*「君-PL」、*taroo-ta*「太郎-PL」。

親族名称は上下によってH、L形式が付けられる。*anna-ta*「母-PL」、*ututu-nukjaa*「弟-PL」、*ffa-nukjaa*「子-PL」。職業も同様に上下によってH、L形式が付けられるが、一部両方取れるものも存在する。*sinsii-ta*「先生-PL」、*ten.in-nukjaa*「店員-PL」、*sitsjoo-nukjaa/sitsjoo-ta*「市長-PL」、*sjatsjoo-nukjaa/sjatsjoo-ta*「社長-PL」。

一方、人間はL形式のみである。bikidun-nukjaa「男-PL」， jarabi-nukjaa「児童-PL」。

4.5.2 非ヒト名詞：-nukjaa

非ヒト名詞はL形式が付くが、意味は上記の地点群とは異なり、近似複数の意味のみとなる。in-nukjaa「犬-その他」， maju-nukjaa「猫-その他」， usɿ-nukjaa「牛-その他」（※「牛-PL」不可。主体は牛で、その他、馬などを含めてもよい）， zzu-nukjaa「さかな-その他」， musɿ-nukjaa「(毛)虫-その他」， tsɿkui-nukjaa「机-その他」， maccja-nukjaa「店-その他(色々なお店)」。

これら非ヒト名詞で一般複数の意味を表す場合は単数形を用いて「たくさんいる」という構文で表すという。

4.6 地点6：池間島

池間島方言では、-ta（H形式）と -mmi（L形式）の2つの形式が観察された（表7）。なお、L形式には「軽卑， 批判」の意味もあるという。その付加状況は、ヒト名詞には両方が可能、非ヒト名詞でも動物では両形式が取れるが、モノ名詞には複数形式を付けることが許容されない。

表7 池間島方言における複数形式とその付加範囲の概略図

形式	ヒト名詞（上）	ヒト名詞（下）	非ヒト名詞（動物）	非ヒト名詞（他）
H形式 -ta	✓	×	✓	×
L形式 -mmi	✓（軽卑）	✓	✓	×

4.6.1 ヒト名詞：-ta もしくは -mmi（軽卑， 批判）

これまでの地点ではすべてH形式だった固有名だが、この地点では軽卑の意味を込めてL形式を付けることが可能である。taroo-ta「太郎-PL」／ taro-mmi「太郎-軽卑」（※悪いことをした太郎に「この太郎め！」といった意味）。

親族名称では目上， 目下ともH形式が付けられるが、目下に「軽卑， 批判」の意味を込めて呼ぶ場合はL形式が用いられる。

[目上] ozii-ta「祖父-PL」， suzja-ta「兄-PL」， itsifu-ta「いとこ-PL」

[目下] uttu-ta「弟-PL」／ uttu-mmi「弟-軽卑」， mmaga-ta「孫-PL」／ mmaga-mmi「孫-軽卑」， mjuui-ta「おい・めい-PL」／ mjuui-mmi「おい・めい-軽卑」

これは職業においても同様の現象がみられる（こちらは目上， 目下は関係ない）。sinsii-ta「先生-PL」／ sinsii-mmi「先生-軽卑」， siitu-ta「生徒-PL」／ siitu-mmi「先生-軽卑」， hukanmaibitu-ta「社長-PL」／ hukanmaibitu-mmi「社長-軽卑」。

人間は上下による両形式の付加によるものと思われるが、同じ意味であることも観察された。kanu hitu-ta / kanu hitu-mmi「あのひと-PL」， jarabi-mmi「こども-PL」。

4.6.2 非ヒト名詞：-mmi または -ta

非ヒト名詞では、動物など生き物にしか複数形式は付けられない。すなわち、この地点では無生物には複数形式が付かないようである。動物などにおける複数形式はL形式が一般複数の意味となり、H形式も付けられるが、その際は「～その他」といった近似複数の意味となる。ただし、形式によった意味の対立が必ずしも安定していないようである。innu-mmi「犬-PL」、tui-ta「鳥-その他（鳥多種）」、hinzja-ta「羊-PL」、zzu-ta「さかな-その他（多種の魚。なお、一般複数では言えないとのこと）」。

4.7 調査結果のまとめ

表 8 宮古島 6 地点における複数形式の付加状況およびその意味

地点	与那覇	砂川	川満	水納島	皆愛	池間島
H形式	-taa	-taa	-taa	-ta	-ta(a)	-ta
L形式	-nukjaa	-nukjaa	-nukjaa	mme, kee	-nukjaa	-mmi
二重複数	×	×	×	✓	×	×
軽卑用法	(未詳)	(未詳)	✓	✓	(未詳)	✓
非ヒト名詞(動物)	L形式	H・L形式	L形式	L形式	L形式	L形式(一部)
非ヒト名詞(モノ)	L形式	L・H形式	L形式	L形式	L形式	×

×：無い，✓：有る

5. 考察

考察においては、上記の調査結果の中から、特に非ヒト名詞における近似用法の意味カテゴリーについて議論を更に掘り下げることにし、それを踏まえた上で、宮古島諸方言における複数形式の全体を概観する。

5.1 皆愛方言における「非ヒト名詞-nukjaa」について

各地点での非ヒト名詞の複数形式では一般複数の他に近似複数（「～その他」）が見られたが、なかでも、その形式付加が近似複数の意味のみである皆愛方言（地点 5）の用法に注目することで、非ヒト名詞の近似複数用法について、その実態はどういうものかを改めて確認する。以下、皆愛方言で示した例（in-nukjaa「犬-PL」、tuŋ-nukjaa「鳥-PL」）の意味について話者による解説を示す。

- (10) *in-nukjaa*=nu=du=u=tii aŋ-kka betɕ=mai=du mattsj=u:=dara
 犬-その他=NOM=FOC=居る=QUOT 言う-COND 別=INC=FOC 混ざる.CVB=IMP=SFP

「『インヌキヤーがいる』と言ったら（必ず）別も混ざっているんだ」

(11) *ironna tuʔ=nu=du uu=ti=nu baa=saai nnja*
 色んな 鳥=NOM=FOC 居る=QUOT=GEN 訳=SFP FIL

「[トゥイ°ヌキヤー (tuʔ-nukja) というと] 色んな (=何種類もの) 鳥がいるってことだ」

これらの解説を見ると、当方言における -nukjaa の近似用法には2つのケースが存在していることが分かる。(10)における in-nukjaa「犬-その他」は、犬が属している上位概念である「家畜」における下位概念である他の個別種類とのグループである。一方、(11)の tuʔ-nukjaa「鳥-その他」は鳥という上位概念の下位に属する複数の鳥の個別種類のことである。すなわち、当該名詞の意味が上位概念であるか、それとも下位概念として捉えるかで両者の意味が決定すると考えられる。例えば、zzu-nukjaa「魚-その他」と gaara-nukjaa「アジ-その他」はほぼ同じ意味であるという(前者の「魚」に必ずアジが混ざっていることが前提であるが)。この場合の「魚」は上記、(10)における「犬」の上位である「家畜」に相当するわけだが、得られた意味は(11)の「鳥」と同じ関係である¹。

また、この関係が当該名詞の「上位概念」とは言えないものがある。以下は tunaka-nukjaa「卵-その他」の例に対する解説である。

(12) *tunaka=tsjaaka ara-dana betʃ=nu jasai=mai noo=mai pazzj=u:*
 卵=だけ COP-NEG.CVB 別=GEN 野菜=INC 何=INC 入る.CVB=IMP
munu=u=du tunaka-nukjaa=nu=du arj=u:
 物=ACC=FOC たまご-その他=NOM=FOC ある.CVB=IMP

「卵だけではなくて、別の、野菜も何でも入っているものに『トゥナカヌキヤーがある』(と言う)」

この例における tunaka-nukjaa「卵-その他」は、概念として卵に直結するものではない、野菜(か何か)が「~その他」として意味されるものである。すなわち、卵も野菜も色々入っている料理のことを指しているが、ここで、上の(11)における「鳥-その他」のような意味関係として、tunaka-nukjaa「卵-その他」が、卵の種類、たとえば、ウズラ、鶏など色々な鳥の卵という意味は許容されない。種としての上位下位概念ではなく、多種の名詞が構成する対象物(ここでは料理)において、その中であるモノ(ここでは卵)を取り上げた際に、その周辺構成物が「~その他」という意味解釈で認識されていると思われる。

¹ なお、新永悠人氏より、in-nukjaa「犬-その他」は Corbett (2000: 239-240) では approximative「集合的例示(新永, 2020:86)」で(共通語の「太郎などがあるよ」の「など」)、一方、tuʔ-nukjaa「鳥-その他」は、distributives「分配?」(英語の「fish-es」(多様な種類の魚)の「-s」。Corbett (2000: 111-117)を参照)であるとの指摘を受けた。

ちなみに、本稿では「~その他」はすべて「近似複数」として呼んでいるが、新永(2000)では、taroo-taa「太郎・PL」(太郎たち)は「連合複数」、また、taroo-mmi「太郎・軽卑」は「否定的例示」(共通語の「今、お茶など飲みたくない」の「など」と呼称、説明している。

同様な例として、kutsjsita-nukjaa「靴下-その他」がある。この場合、靴下とその他、身につけるものが含まれるという意味で解釈され、逆に、靴下だけの種類、すなわち、白い、赤い、青い靴下などといった意味は許容されないのである。

当該名詞が我々の一般社会における生態関係における階層において、そのどこに位置しているかにより、「～その他」が意味するものが変わってくると考えられそうだが、そう簡単なことではなく、「魚」は魚類というカテゴリーの最大範疇の名詞表現であるから、「魚-その他」は下位の多種の魚を意味することが可能である一方で、「犬」の上位概念は果たして「家畜類」でよいのかという答えは議論の余地があるように思われる（例えば、ドッグブリーダーの人たちの考えはそうではないように思われる）。すなわち、話者の着眼点により、その当該名詞の位置関係が決定され、「～その他」の上位下位概念が決定されるのではないかとと思われる。

5.2 宮古島諸方言における複数形式の全体像

宮古語諸方言における複数形式の基本的なルールとして、名詞句階層において高いもの（固有名、人称代名詞、目上親族）には -ta(a)（H形式）が付けられ、一方、階層が低いもの（目下親族、動物、非生物）には -nukjaa, -mmi, mme, kee（L形式）が付けられる。

また、付加状況に応じて、一般複数（累加複数とも）か近似複数（～たち、～その他）という2種類の意味が観察される。ヒト名詞でも唯一無二のもの、階層の高いものには近似複数（～たち）の意味が実現され、ヒト名詞でも複数いるようなものや、非ヒト名詞は一般複数、もしくは近似複数、両方の可能性が見られた。

目上、目下の区別に従ってH形式とL形式が使い分けられている一方で、これらH形式、L形式が、前者は「敬意」の意味で目下の名詞にも付き、後者は「軽卑」の意味で目上の名詞にも付き得ることが明らかになった。これは先行研究で指摘されていない新しい知見である。特に広く観察されるのは、親族名称において目上親族にL形式を付けるとその敬意が下がる軽卑の用法である（川満、水納島、池間島など）。なお、この用法は大神方言にもあるとのことである（ichiro:ta「イチロー-たち」／ ichiro:=nu ke:「イチローのやつら？」（金田, 2023: 87））。逆に、L形式が付いている目下親族にH形式をさらに付けると敬意表現となる方言（ffa=nu mme-taa「子ども=GEN PL-敬意」水納島）や、目下親族でもH形式が付き、L形式は軽卑用法という使い分けをする方言もあった（uttu-ta「弟-PL」／ uttu-mmi「弟-軽卑」池間島）。

非ヒト名詞に関しては、全地点でL形式が付けられることが確認できた。ただし、非ヒト名詞への付加の範囲やその用法は方言によって異なっている。例えば、池間島（地点6）では非生物には複数形式が付かず、また動物でも身近でないと複数形式が付けられない。しかし、これに対して、皆愛方言や砂川方言では、制限なくどのような非ヒト名詞でも複数形式を付けることが可能である。最後に、諸方言で見られた「近似複数」の用法では、複数形式が付加される名詞の意味的特徴（上位概念、下位概念など）によって算出される意味が異なってくる現象も観察された。

参考文献

Corbett, Greville G. (2000) *Number*, Cambridge University Press.

林 由華 (2013) 『南琉球宮古語池間方言の文法』, 博士論文, 京都大学大学院文学研究科.

金田章宏 (2023) 「宮古語大神方言 助辞 na: の複数性をめぐって」『琉球の方言』46号, 法政大学沖縄文化研究所.

新永悠人 (2020) 「北琉球奄美大島湯湾方言の名詞・代名詞複数形の機能とその通言語的な位置づけ」『言語研究』157, 71-112, 日本言語学会.

大島 一 (2018) 「大阪泉州方言における『ら』の複数性」『日本言語学会第157回大会予稿集』136-141.

下地理則 (2017) 「琉球諸語の代名詞：これまでの記述にもとづく類型化試論」『日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成研究発表会発表資料』.

Shimoji, Michinori (2018) Information Structure, Focus, and Focus-Marking Hierarchies in Ryukyuan Languages, *Gengo Kenkyu*, 154: 85–121.

下地理則 (2018) 『南琉球宮古語伊良部島方言』, くろしお出版.

王 丹凝 (2023) 『南琉球宮古語城辺町新城方言の文法』博士論文, 九州大学.